

令和 6 年度 県立古河第三高等学校自己評価表

目指す 学校像	「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。 ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校 ○ 他者への思いやりの心にあふれた生徒を育む学校 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成 状況
大学の合格者数は国公立大学が 22 名、私立大学がのべ 313 名であった。国公立大学では後期日程で埼玉大学・茨城大学・高知大学に合格した。昨年までと比べ、前期日程だけでなく、後期日程まで挑戦する生徒が増えた。引き続き、最後まで諦めない姿勢を生徒に喚起していきたい。入試の形態が多様化しているため、生徒が対応できるように指導していくことが今後の課題である。 部活動においては、生徒達は自主的にかつ積極的に活動した。学習の成果のみならず、特別活動や学校行事に関しても、文化祭や球技会を実施し、生徒の主体的な取り組みと共に望ましい成長を実感できた。 生徒募集においては、8 年連続で志願者数が定員を下回った。第 2 次募集まで含めた入学者は増加しているので、最初から選ばれる魅力ある学校を目指し、広報の手段や機会をさらに工夫していく必要である。 これまで以上の教育活動の充実を図り、地域の伝統校として地域の期待に応えるとともに、信頼を確立する。主体的で積極的な学習意欲を喚起し、学びの楽しさを実感できる授業を目指し、豊かで確かな人間力の育成を図る。 交通事故件数は減少しており、警察等との連携により安全教育の充実を目指す。学校安全に全職員で取り組む覚悟を持つ。		1 生徒が希望する上級学校進学を実現する	① 1 年「自己発見」 2 年「自己発展」 3 年「自己実現」をめざし、進路行事や面談、普段の対話から生徒の知っている世界を広げる。 ② 進路講演会、「進路だより」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者に適切な情報を提供し、動機付けをする。 ③ 上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を促し、職業・大学・学部・学科について理解を深める。	B
		2 家庭学習の習慣化	④ 外部模試結果等の分析を定期的 to 実施するとともに効率的な運用により、学習意欲を向上させ、学習時間を増進させる。 ⑤ シラバスや進路学習調査結果等を生徒に提供し、進路実現に必要な学習時間を定量的に分析し、生徒自身に中・長期的学習計画を立てることの重要性を認識させる。	B
		3 豊かな人間性を身につけるための取り組み	⑥ 授業や課外活動を通して生徒の自己有用感を高揚させ、生徒の自律・自立の心を育てる。 ⑦ 豊かな人間性を育むために、教養講座や、図書館の蔵書を有効に活用する。 ⑧ 集団活動や体験活動を通して生徒の社会性を育み、併せて実践力の向上に努める。 ⑨ 部活動・生徒会活動・J R C 委員会・学校行事など教科外活動を充実させ、キャリア・パスポートを活用して責任を持って行動する態度を育てる。	A
		4 広報活動の充実	⑩ 学校公開・中学校訪問・塾対象説明会・ホームページの活用を通して、小・中学生やその保護者や教員に対して、積極的に本校の良さをアピールする。	A
		5 個に対応した指導	⑪ 生徒との信頼関係を築くため、担任との三者面談週間を少なくとも年 2 回実施する。また、二者面談も積極的に実施する。 ⑫ 学習指導要領に対応した授業進度・レベルを再考し、理解力向上を図る。	A
		6 学校安全の徹底	⑬ 学期毎に実施する定期点検の内容と精度を高め、全職員・全生徒の防災意識を高め、危機察知能力の向上を図り、安全安心な学校環境を実現する。	A
		7 働き方改革の推進	⑭ みんなで協力する体制づくりをすると共に、時差出勤制度を積極的に活用し超過勤務時間の減少を図る。	A
		8 授業改善	⑮ 生徒の学力向上のため授業第一主義を掲げ、授業力向上を意識し、教員相互の授業見学を定期的 to 実施するなど、授業の質向上を図り、生徒の授業満足度 80% 以上を目指す。	B

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

三つの方針		具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。 ○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒。 ○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒。 ○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒。	B		各校務部及び学年において校訓に沿って教育活動の具現化を図る。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○授業こそが最も実力を上げる場であることを浸透させ、三年間の生徒育成計画のもと密度の濃い授業の実践・研究を図る。 ○部活動・特別活動及びボランティア活動等の体験活動や道徳・探究の授業を通して、多様な人々との対話のなかでコミュニケーションをとりながら社会貢献を目指すグローバル市民の育成を図る。 ○確かな学力をもとに将来への目標を生徒自ら設定し、進路希望実現のために邁進できるアクティブラーナーを育成する。	B	B	個に応じた学力向上のための目標設定と、部活動や学校行事、探究活動等に主体的に取り組む生徒の育成を図る。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○意欲にあふれ、自ら学び行動する生徒。 ○多様性を尊重し、対話を通じてコミュニケーションをとりながら社会への貢献を目指す生徒。 ○将来、地域の政治・経済・文化等を牽引することができる生徒。	B		本校の特性を生徒や教職員がアピールする場を増やし、志願者増を図る。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	・小テスト等を利用して、学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A		・副教材の統一 ・各課外の目的の統一 ・学習アプリの活用
		・個に応じたきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にする。	A		
		・学習内容の定着のため、教員へ質問しやすい環境を作り、放課後等を効果的に利用する。	B		
	進路実現のため自主学習定着に努める	・ノート・課題等を定期的に点検し、自主学習の習慣をつける。	A		
		・予習・復習のやり方、模試の解き直し等の指導を通じて、継続的に学習する方法を身につけさせる。	A	B	
		・小論文や参考書コーナーを図書館内に設置し、自主的に学習できる環境作りをする。	B		
		・大学入試の傾向と対策を指導し、自主学習の内容に役立たせる。	B		
	わかる授業の工夫、改善に努める	・シラバスを作成し、目標に添った授業計画を立案する。	B		
		・各種研究会、研修会に参加し、自己研鑽に努める。	B		

評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

地歴 公民	基礎学力の向上と定着及び授業研究の推進	・小テスト・課題プリント・レポート等を用いて、基本的事項の確認と確実な定着を図る。	A	B	基礎学力の定着に努めることができた。 教員間での授業の研究・改善は、今後より必要である。
		・わかりやすく効果的な授業を目指し、教員間の研修を行う。	C		
		・生徒の自発的学習を促し、学習意欲を高められるよう、授業を工夫する。	B		
		・知識・理解の定着のために、問題集を効果的に活用する。	B		
数学	基礎・基本の定着を促進する	・単元ごとに考查を実施することで、学習のつまずきを早期に発見し対応する。また、必要に応じて補習を実施する。	B	B	模擬試験の分析をして生徒の表現力を高めていく必要がある。 学習アプリの使用方法を検討していく。
		・映像資料やパワーポイント、1人1台端末等のICTを活用し、数学的な事象に対する関心や理解を深める。	B		
	家庭学習の習慣化に努める	・考查ごと（定期的）に問題集用のノートを提出させることで、家庭学習の動機付けを行う。	B		
		・長期休業中には課題を与え、学期中の復習ができるようにする。	B		
		・シラバスを元に目標を意識させ、計画的に予習や考查の準備ができるようにする。	A		
		・模擬試験を利用して、家庭において発展的な内容に自主的に取り組む習慣を付ける。	B		
	進路実現のための指導を工夫する	・模擬試験を通して、学習の定着の状態を認識させ、自分の課題に気づかせる。	B		
		・各種課外では、レベル別講座やコース別講座など講座内容を工夫して実施する。	C		
理科	実験・観察を通して自然現象に対する興味・関心を高めるとともに、基礎的な学力の向上と定着を図る。	・各研修会に参加し、入試問題などの分析を行い、生徒に還元する。また、互いに授業見学を行い、研修に努める。	B	B	観察・実験を実施して、技能習得に努める。 理科や科学の知識が生活に役立っている事例を扱うようにする。
		・学習内容の理解度を把握するため、小テストを実施する。また、課題を提出させることで知識の定着を図る。	A		
		・映像資料やプレゼンテーションソフト等のICTを活用し、科学的な事象に対する関心や理解を深める。	B		
		・3年では課外を通して発展的な内容に取り組み、生徒の学力向上を図る。	A		
		・授業の相互参観など教員間の研修を行い、自己研鑽に努める。	C		
		・観察・実験を通して、自然現象への興味・関心を高め、基本的な実習技能を習得させる。	C		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

保健 体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	・各単元の種目の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	A	B	各単元において、グループ活動時間を増やして、自己や仲間の運動の合理的な解決方法を身に付けさせたい。
		・体育や保健の各単元を通して、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。	B		
		・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	A		
芸術	芸術に対する興味・関心の向上	・鑑賞と表現活動とのバランスのとれた授業を実践し、芸術への興味・関心を高める。	A	B	識と技能を結びつけて表現する力を育成することのできる課題の設定、実践を行う。
	鑑賞力・表現力の育成	・芸術と様々な文化（歴史・風土・言葉・諸芸術）との密接な関連を理解させ、鑑賞力を育てる。	B		
		・生徒の自主計画による学習を实践、知識と技能を結びつけて表現する力を育成する。	B		
外国語 (英語)	基礎学力の定着	・1 学年では、英和辞書や参考書、音声教材などを効果的に活用する学習習慣を確立させる。読んだり聞いたりした英文の内容を理解させ、身近な話題に関する自分の考えや意見を発信する力を養う。	B	B	・自主的に学ぶ態度を養い、既習内容の定着を図るよう家庭学習量を増やす。 ・読解力を身につけるための長文読解の帯活動を取り入れる。
	演習の充実	・2 学年では、文法等の知識を定着させるとともに、まとまった量の英文の内容を素早くつかめる読解力を身につけさせる。また、考えや意見を伝え合ったり、まとまった量の英文を書いたりすることで、自ら英語で表現する力を育てる。	B		
	入試レベルの実力の養成	・3 学年では、これまでに培った英文法や語法の知識を活用して、長文の主旨や要点を速く正確に読み取る力をさらに伸ばし、大学受験に対応できる実力をつけさせる。また、様々な情報や意見を多角的に分析・検証し、自分の判断を加えて論理的に文章や言葉で表現できるようにする。	B		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

家庭	基礎的知識と生活技術の習得・向上	・多様な教材の活用と発問の工夫により、学習内容に興味・関心をもたせ、日常生活に必要な基礎的知識を習得させる。	B	B	・社会の変化に対応し生徒が興味・関心をもてる教材を選ぶ。 ・わかりやすい授業に改善し、生徒自身が成長を感じられる工夫をする。 ・効率の良い実技指導の方法を考える
		・実習・実技試験により生活技術の習得と向上を図り、生徒自身が成長を実感できる授業を展開する。	A		
	社会生活の充実・向上に繋がる実践的態度の育成	・社会的問題に繋がる家庭的課題を取り上げ、家庭と社会の繋がりに関心をもたせる。	A		
		・調べ学習や発表を通して様々な価値観があることに気付かせ、生徒の選択肢を拡張、判断力と実践的態度を育成する。	B		
		・日常生活で即実践できる取り組みを考えさせる。	C		
	課題解決能力の向上	・実験・実習では、課題を明確にし、個人目標・グループ目標を設定させ、協力して取り組ませる。振り返りをその後の生活に生かせるようにする。	B		
		・課題解決学習「ホームプロジェクト」を通し、家庭における自分の役割を認識させ、個々の自立や家庭生活の改善・向上に生かせるようにする。	C		
情報	情報社会に主体的に参画するための資質・能力の育成及びメディアリテラシーの醸成	・問題解決に関連したデータの収集・分析を行い、情報活用能力を育成する。	B	B	プログラミングやデータサイエンス、共通テスト等に関する最新の情報の収集, 研鑽を積む。
		・情報及び情報技術を活用した授業を行い、問題解決能力を育成する。	B		
		・情報社会の問題点について考えさせ、情報モラルやマナー、知的財産権等を理解し、情報活用のリテラシーを身に付けさせる。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

教務企画	授業時間の確保	・授業時間確保に努め、出張等の授業の振替率 96 %以上を維持する。	A	B	・教育課程、考査等の見直し ・学習評価の内規の周知徹底 ・生徒のニーズに応じた資料やコーナーの充実 ・秋以降の利用者減少への対策 ・PTA行事の見直しと、それに伴う役員体制と役員の引継ぎ方法の考慮 ・支部PTA活動の方向性の模索と活性化 ・分掌が統合されたことに伴う業務の精選と見直し
		・授業時間の有効な利用のためにも「授業開始のチャイムは教室で聞く」という、共通理解を徹底する。	B		
		・曜日別の授業予定時間数をもとに定期考査ごとに曜日変更を行い、可能な限り総授業時間数の均一化を図る。	B		
	広報活動の充実	・学校公開・中学校訪問・塾説明会等を通して、小・中学生やその保護者や教員、また地域に対して、積極的に本校をアピールする。また、HPを有効に活用する。	B		
		・魅力のある学校案内・学校紹介ポスターを作成・配布し、本校の特徴を中学校・塾に伝える。	B		
	新学習指導要領への対応	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や学習評価の工夫、教育課程の改善を図る。	B		
	校務支援システムの活用	・統合型教務支援システム(教助)の運用体制の確立を図る。	B		
	図書館利用の促進	・生徒の読書活動・読書指導の場である「読書センター」としての充実を図る。	B		
		・生徒の学習活動支援・授業充実の場である「学習センター」としての整備を図る。	B		
		・生徒・教職員の情報ニーズへの対応や情報収集・選択・活用能力育成の場である「情報センター」としての充実を図る。	B		
		・図書専門委員会を定期的に開催し、図書館便り・カウンター業務・展示コーナー作成・行事参加・生徒図書委員研修会への参加等、生徒が積極的に動ける委員会活動を目指す。	B		
		・視聴覚教材・資料の充実を図る。	B		
		・授業や受験勉強に利用できる図書館・視聴覚室作りを進める。	B		
	学校と保護者、同窓会との連携を密にして、PTA・同窓会の活動の円滑化、充実を図る。	・PTA総会や授業参観、学校公開・文化祭等の各種学校行事への参加を保護者に呼びかける。	B		
		・本校のホームページ等を利用してPTA活動の広報に努める。	B		
		・地区別PTA等のPTA活動に教職員も積極的に参加する。	C		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

進路学習	I 10 月実施の進路希望調査にて進路の別の未定者を各学年2%以下にする。	1 年「自己発見」 2 年「自己発展」 3 年「自己実現」 ・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて学年の適切な進路・学習指導をサポートする。	A	B	年度内入試に対する指導の仕組みを整理し、充実させる必要がある。 三進合同会を実施する。 生徒にはオープンキャンパスに参加するだけでなく、普段の授業も参観させたい。 入試・模試を分析し、幅広い進路選択に対応したい。
	II 10 月実施の進路希望調査にて大学進学希望者の学部系統別未定者を1 年 25%以下、2 年 10%以下、3 年 5%以下にする。	・生徒の進路希望状況を分析し、希望実現をサポートする。 ・進路行事や面談、普段の対話から生徒の知識を広げ、進路選択の一助とする。	B		
	III 民間就職内定率 100%を継続する。	・進路講演会、「進路便り」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者・教員に適切な情報を提供し、動機付けをする。	A		
	IV 進路調査における第一志望現役合格率 50%以上にする。	・上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を勧め、職業・大学・学部・学科について理解を深める。	B		
	V 国公立大学に 30 名以上の合格者を出す。	・生徒の進路希望に応じ、効果的で十分な指導を検討・実践する。	B		
		・入試・模試結果を分析し、学年や教科の実態を把握し、学習・進路指導の改善に努める。	B		
生活環境	1 基本的生活習慣の確立	・HR や各授業、集会等での服装・容儀指導	B	B	中高生の自殺が増加傾向にあるため職員間の情報共有が必要である。 また SNS の適切な利用やいじめ防止についても引き続き注意が必要である。 防犯意識や危険察知能力を高めるため、防災避難訓練の充実を図る。 感染症予防のための指導及び環境を整える。
		・三高デー（校外登校指導）	A		
	2 心身の健康増進	・日常的、定期的に健康観察・保健調査・健康診断・健康相談を実施し、生徒の心身の管理に努める。	A		
		・病気や感染症予防の知識を習得させ、健康増進を促す。	A		
		・スクールカウンセラーとの連携を密にして、多様化する生徒の悩みに対応する。	A		
	3 安全教育の推進	・交通安全教室 「スマホ」安全教室 性教育講話 〈1 学年対象〉	B		
		・薬物乱用防止教室 〈2 学年対象〉	A		
		・防災避難訓練	B		
	4 危機管理体制の強化	・生徒とのコミュニケーションの緊密化	A		
		・年間 2 回のアンケート調査及び不定期の被害調査等によるいじめ等の未然防止・早期対応	A		
		・保護者・地域・関係機関との連携強化	A		
	5 社会人としてのモラル・マナーの習得	・SNS の正しい利用についての意識啓発	B		
		・生徒会を中心とした自主規制意識の醸成	A		
	6 学校環境の整備	・清掃用具の管理、清掃指導を通して学校環境の美化等情操面を養う。	A		
		・教室内の空気・照度・飲料水等の環境生成検査、校内の安全点検を実施し、安全安心な学校環境を実現する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

特別活動	特活関係行事全体を見直し、生徒の自主的活動を推進する体制を整備する	・各行事の計画は、年間計画を見据えた上で立案する。	B	B	年間計画の見直しが必要。 文化祭・球技会においての安全管理の徹底。
		・各行事の企画・運営にあたっては、各学年や各分掌との連携を十分に図る。	B		
		・各行事では、生徒の自主性・創造性が発揮できる環境や機会を提供できるように計画する。	A		
	生徒会活動の活発化と充実を図る	・各委員会の計画的で活発的な活動を推進する。	B		
		・文化祭・球技会では、生徒の自主性・創造性が発揮できるように十分検討し、改善する。	A		
	部活動の充実	・運動部への加入率を増加させるとともに、退部する生徒数の減少をめざす。活動時間を確保し、心身のたくましさや豊かな心を育成する。	B		
・部活動の運営・予算等の問題点について検討し、改善を図り、施設・設備の充実に努める。		A			
探究推進	行事の計画・実施を行う	・スプリングセミナー、探究発表会などの行事を運営する。	A	B	今年度の反省を生かした事業案の作成をする。 教員・生徒への共通理解の徹底のための研修等の設定をする。
	総合的な探究の時間「SS」の計画実施を行う	・「SS」の意義等を周知するための説明を生徒・教員に適宜行う。	B		
		・「SS」の円滑な運営のために、教員間での相談を密にする。	B		
		・「SS」の反省が次年度に生かせるように改善する。	B		
	関係機関との情報交換と協力の依頼	・外部との意見交換等を行い、協力機関等を新規に開拓する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

1 学年	基本的生活習慣の確立	・挨拶や礼儀、普段の言葉遣いや身だしなみ等、きまりを守る生徒を育成する。	C	B	「今やるべきこと」を各自が主体的に考え、行動する態度を育てる。授業開始時間を守るだけではなく、休憩時間とは意識を切り替えるよう徹底したい。
		・欠席・遅刻・早退をしないよう規則正しい生活を心掛けさせ、日々の体調管理に気を配る。欠席・遅刻連絡を含め、保護者との連携を密にすることで、学校と家庭との協力体制を構築する。	A		
		・面談等を通し、生徒個々へのきめ細かな指導を行うための共通理解・情報共有を行う。	A		
		・授業の開始時間や行事等の集合時間を守るなど、時間を厳守する態度を育てる。	A		
		・清掃や委員会活動などにおける役割分担を明確にし、所属意識を醸成する。	B		
		・「今、すべきことは何か」を考え、状況に応じた適切な態度・行動ができる生徒を育成する。	C		
	基礎学力の向上	・将来に向けた具体的なイメージを掴むことができるよう、段階的に進路情報を明示する。	B	C	家庭学習が習慣化していない生徒が多い。学習時間を見える化し、やる気を喚起するための工夫が必要である。次年度はスタサプの活用を増し、基礎学力の向上に役立てたい。
		・3年後の自己実現を図るため、学習の積み重ねの重要性を理解させ、家庭学習の習慣化を促す。	C		
		・授業を大切にする姿勢を身に付けさせ、課外や校外講座を積極的に利用しながら、考えを深める体験をさせる。	B		
		・定期考査や校外模試への動機付けを積極的に行い、偏差値 50 を超える生徒が半数以上、55 を超える生徒が 50 名以上を目標とする。	D		
		・成績不振の生徒及び保護者に対して学年主任面談を行い、家庭の協力を求める。	C		
		・成績と学習時間の相関関係や学習の成果を見える化し、生徒のやる気を喚起する。	D		
	良好な交友関係・連帯意識の育成	・スプリングセミナーを実施し、新たな交友関係の構築及びクラスづくりの一助とする。	A	B	教員自身が探究に関する認識や目標を共有し、生徒に方向性を明示できるようにしたい。視野を広げ、自分の考えを深めて意見を言うことのできる生徒を育成する。
		・LHR等を利用したクラス単位の活動や学年単位でのクラスマッチ等のレクリエーションを通し、集団の一員であることを自覚させ、連帯意識の向上に努める。	A		
		・文化祭や球技会等の学校行事、部活動やボランティア活動等に積極的に参加できるように声かけを行い、協力し合える雰囲気をつくる。また、安心安全な教室環境作りに努める。	B		
		・探究活動を通して自己の意見を深化させ、多様な意見を享受しながら「敬愛」「自立」の精神の育成を図る。	C		
	進路の意識付け	・LHR、授業時間を通して学習の意義と目的を考えさせる。	C	B	ハイスクールオンラインを活用し、適した個別指導をしていく。
		・事後の教科指導に反映させるため、外部模試の後には分析会を実施する。	D		
		・文理分け説明会や進路講演会、三者面談を通して、生徒および保護者の進路意識を向上させることで、2年次の適切な文理選択を実現する。	A		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

2 学年	自己管理力の育成	・生徒心得等のきまり（礼儀・身だしなみ・挨拶・SNS の利用等）を遵守する規範意識を高める。	B	A	・遅刻・欠席への声掛けの継続。提出物などの締め切りの厳守についても強調していく。
		・欠席・遅刻・早退をできるだけしない雰囲気づくりをする。欠席・遅刻等が多い生徒は、保護者との連携を密にし、面談等のきめ細かい指導をする。欠席・遅刻・早退をする際は、保護者から学校へ連絡することを徹底させる。また、手帳や予定管理アプリを利用させ、自己管理をさせる。	A		
		・着席してチャイムを待つ、集合時間を守るなど、時間を遵守する態度を育てる。	A		
		・清掃・委員会など役割分担を明確にし、自ら考え責任をもって行動する態度を育てる。	B		
	基礎学力の向上	・進路目標の設定と実現に向けて、学習の積み重ねの大切さを理解させる。特に授業に真剣に取り組み、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。	A	B	・家庭学習の充実・時間増に向け、各教科・学年協力していく。また、スタサブの有効利用について考えていく。11 月模試で 3 科目偏差値 50 以上は 36 名であった。
		・家庭学習の重要性を意識させ、「予習⇒授業⇒復習」のサイクルが継続・習慣化するように指導する。	B		
		・課外、校外模擬試験に積極的に取り組ませる。なお、校外模試において偏差値 50 を超える生徒が 80 名以上、55 を超える生徒が 30 名以上を目標とする。	B		
		・学期末に成績不振の生徒の保護者を召喚し、本人への指導と家庭の協力を求める。	A		
	主体性および連帯意識の育成	・探究活動や各教科等での横断的な事前指導を踏まえ、目的意識をもって主体的に修学旅行に臨ませ、充実したものとする。	B	A	・主体性をもった取り組みをしている生徒が増えた。継続していけるよう、声掛けやフォローを行っていく。
		・文化祭や球技会等の学校行事に主体的に参加させる。	A		
		・LHR 等を利用したクラス単位の活動や、学年単位でのレクリエーション行事を生徒主導で実施することにより、自主性および連帯意識の向上に努める。	A		
		・部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、「敬愛」「自立」の精神を育み、主体的に行動できるリーダーの育成を図る。	A		
	進路目標の設定	・様々な進路行事を通して学習の意義と目的を考えさせ、日々の積み重ねが進路実現に関わることを理解させる。	A	B	・教員側も最新の進路状況を把握し、生徒がよりよい進路実現が図れるようにする。
		・卒業生との懇談会等の進路行事や「総合的な探究の時間」の授業等を通して、自己の適性と進路の方向性を見極めさせ、次年度の適切な進路選択を実現する。	B		
		・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導の連携を図る。	B		
		・各種講演会や三者面談、卒業生との懇談会を通して、受験に対する心構えや知識を深め、次年度は受験生であるという自覚と意識をもたせる。	B		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

3 学年	自律的な精神の育成	・社会生活において基本となる身だしなみや言葉遣い、挨拶などの重要性を理解し、自主的に実践することを徹底させる。	C	B	・遅刻、欠席が目立つ生徒がいた。 ・服装指導に教員間の温度差があった。 ・自転車の事故や苦情が多かった。
		・自己管理の意識を高め、欠席・遅刻・早退をしない基本的な生活習慣を身につけさせる。	C		
		・生命を尊重し、互いに安心・安全な生活を送るため、交通ルールや社会法規を遵守する態度を育てる。	B		
		・社会規範を守りながら、適切に SNS 等を利用できるよう、啓発する。	B		
	進路実現に向けた学力の獲得	・一人一人の生徒が希望する進路を実現するための、十分な学力を身につけさせる。	B	B	・学習態度の差が成績を左右した。 ・家庭学習習慣ができていない。 ・学習内容が定着していない。
		・授業をより充実したものにするために、「予習⇒授業⇒復習」を徹底させ、学習内容の定着を促す。	C		
		・積極的に課外授業への参加を推進し、学習指導の充実を図る。	C		
		・自ら学習する姿勢を育成することで、受験生として必要な学習時間を確保し、学習の質を高めさせる。	B		
	連帯意識の醸成	・学校行事に主体的に参加させ、クラスや学年としての連帯感を持たせる。	A	A	・日頃は控えめな生徒も学校行事を楽しんでいた。 ・自分勝手な振る舞いも見受けられた。
		・学校行事や部活動を通して、組織をリードすることのできる生徒を育てる。特に部活動においては、最高学年としての役割を果たすように意識させる。	A		
		・体験活動や校外での活動に積極的に参加させることで、相手を思いやり、互いに協力する「敬愛」の精神を育む。	B		
	進路希望の実現	・校訓である「自立・敬愛・創造」の意義を十分に理解させ、それらを実践することで進路実現へと導く。	B	B	・生徒が模試の目的を理解していない。 ・教科で模試対策が必要。生徒も主体的に動くよう促す。
		・自分の進路について様々な角度から主体的に検討し、目標に向けて自主的に努力し、「自ら動く」姿勢を身につけさせる。	B		
		・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導との連携を図る。	B		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない